

多様性を尊重した職場の コミュニケーションと 人権 I

ハラスメントを生まないために

～収録テーマ～

- ① 「違う」と言ってもいいですか？
- ② 拒否しないから、いい？



上映時間:25分

価格:66,000円(税抜)

解説書・ワークシート・ドラマシナリオ付

字幕版同時収録

商品コード[C#3254]



東映株式会社 教育映像部

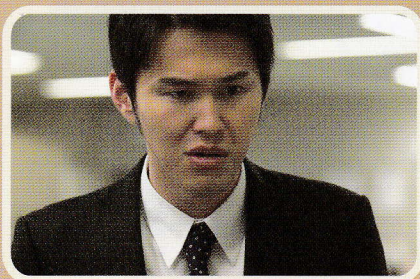
〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17 <http://www.toei.co.jp/edu/>

このDVDについて

現代企業において、周囲が気づきやすい「パワハラ」や「セクハラ」は減ってきているかもしれませんが、しかし多様化する職場や人間関係の中で、ちょっとしたコミュニケーションの不和によって様々なハラスメントの芽は発生しているのです。その芽を摘む為にもよりよいコミュニケーションが重要となってきます。どこの企業でもあり得そうなショートドラマとその振り返りを通じて、多様性を尊重したコミュニケーションとは何かを視聴者に考えさせるドラマ教材です。



本作は様々なハラスメント事例を再現したドラマパートと、その事例について登場人物達が振り返りながら、ディスカッションしていくパートの2部構成になっています。登場人物たちの意見交換を通して、視聴者も様々な視点でハラスメントへの認識を深めながら、自らの日頃の言動を振り返りやすい構成になっています。



Case 1 「違う」と言ってもいいですか？

剛腕で評判の部長・蟹江に憧れ、コンビを組む八木は次の土曜日にある、愛娘のお遊戯の発表会を楽しみにしていた。しかしそんなある日、蟹江から呼び出され、取引先の急な都合で土曜日に休日出勤をする旨、言い渡される。その日だけは休みたいと思う八木だったが誰よりも働いている蟹江にはそれを言い出すことができない・・・
カフェのメンバーは、この2人のコミュニケーションに問題があったのではと、この事例を振り返る。



Case 2 拒否しないから、いい？

ある日、係長の佐藤は入社したオフィスでぎょっとするシーンに出くわす。部長の塩ノ谷が妊娠九ヶ月になる須崎の大きなお腹を撫でている。「元気に出ておいで～」好々爺の様に無邪気に笑う塩ノ谷に対し、須崎は強い嫌悪感を抱くが、何も言うことができない・・・おめでたいことだから、悪気はないから、塩ノ谷の行動についてカフェのメンバーで意見が交わされる。そして「相手の立場を思いやった」コミュニケーションをどうすればとれたのか、この事例を振り返る。

教育映像



予告編配信中! <http://www.toei.co.jp/edu/>

脚本：山上梨香 監督：越坂康史 プロデューサー：岡部圭一郎 木下勢治 企画・制作：東映株式会社 教育映像部 制作協力：アマゾンラテルナ 2015年度作品

■お買い上げは、

北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2 〒336-0911
電話048-810-5277 Fax048-876-2955